

報告者名	岡山 卓矢	被調査者生年	未確認(男)
調査者名	岡山 卓矢	被調査者属性	熊谷産業社員
補助調査者	土佐美菜実		

被調査者(主な聞き書きは話者①から)

*話者②(未確認(女)熊谷産業社員)

調査状況

北上川右岸、福地付近河川敷で熊谷産業の社員男女2名によるカヤの刈取り作業をしているのを目撃、作業を見させてもらう。男性社員が発動機付き刈取り機を用い、女性社員がこれを束ねる作業中。

カヤ刈りについて

熊谷産業のカヤ刈りは、丁度今くらいの季節から3月頃まで続く。倒れたカヤ、太くなり過ぎたカヤは残し、刈り取り終了後に焼いて全部なくす。北上川上流から刈り取りはじめ、だんだん下流へ進んで行き、釜谷付近は3月頃の刈り取りになる。季節的な潮の満干でカヤ地が陸になる時期を狙ってのスケジュールである。釜谷の中洲のカヤは、最近をよく見てたわけでないから分からないが、今年もよくとれそうなくらいには生えていた。

北上川右岸の旧河北町側は熊谷産業がすべて刈り取りをする。一方左岸の旧北上域は、一部を熊谷産業が刈取るものの、他業者2、3軒の刈る場所もあり、また通例として集落が手刈りしたものを買い取る契約となっている地域もある。なお明日は他の現場からのカヤ搬入があり、そちらの作業をする。

震災時は釜谷の中洲にて10人くらいで刈取りをしていた。人が乗って操縦する大型機械を船で運び込んだ上で作業していたが、中洲は谷地であり地震の揺れで立ってられない状態で、刈ったカヤ束に腰を下ろしてやりすごした。堤防をみるとどんどん大きな亀裂が入っていき、これは車で通るのは無理だと思った。揺れが収まったあと、熊谷産業の会長が来て逃げるよう指示され、車や機械類は捨てて堤防を戻ったところ、堤防の一部はえぐれるように陥没しており、やはり車は使えない状態だった。そういう場所を歩きで避けて逃げながら、ラジオでこちらへ6メートルの津波が来るとの放送を聞いた。一時はだめかと思った。



写真1 カヤの刈取り作業



写真2 カヤの結束作業

釜谷対岸の釜谷崎にある本社も流され、社の書類も刈り終えていたカヤも機械類も流された。一部の高台物置に保管していた小型の機械類だけが無事で、今ここで使っているものもそうして残ったものである。

会社全体で何人の職員がいるかは分からない。というのも、職員は方々の現場に分散しており、山形方面の職員はよく人数を知らないからである。ここに生えているのはいわゆるヨシで、谷地ガヤと呼ぶ。この辺りでは谷地ガヤを屋根に使う注文が主だが、山形や大崎地方ではヤマガヤ（ススキ）を使った注文が多く、全てここの谷地ガヤを使っているのではない。